

# 群馬・ブラジル 大統領選挙上映会

舩方周一郎 編



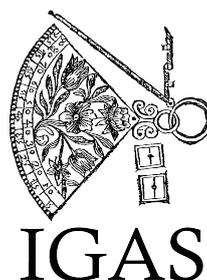
群馬・ブラジル大統領選挙

東京外国語大学 海外事情研究所

2024

# 群馬・ブラジル大統領選挙上映会

編者：舛方周一郎



東京外国語大学・海外事情研究所

2024 年



# 刊行にあたって

— 舛方周一郎

本書は、2022年12月10日に実施したNHK『同時ドキュメント 群馬・ブラジル大統領選挙』上映会のディスカッション「ブラジル大統領選における在外投票の意味と在日ブラジル人の選択」を記録したものである。

2022年10月に実施されたブラジル大統領選では、現職のジャイル・ボルソナーロとの一騎打ちの末に、ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバが当選した。事前の意識調査ではルーラの優位が伝えられていたものの、投票結果は大方の予想に反してボルソナーロの支持が多く接戦となったことで世界からの関心を集めた。ブラジルは政治・社会の分極化が加速する国との認識は国内にとどまらず、世界中のブラジル人ディアスポラにも広がり、世界中を巻き込んだ論争となった。そのスポットの一つとなったのが、多くのブラジル人が居住する日本のコミュニティである。ルーラ支持とボルソナーロ支持は世界的にみれば均衡しているが、在日ブラジル人の中ではボルソナーロへの支持が8割以上と集中していたことも話題性を集めた。

在日ブラジル人の投票行動には、2010年のブラジル大統領選挙以来、関係者の間で高い関心が寄せられてきた。しかしブラジル国内外のブラジル政治の研究者は、国内の政治動向を注視するが、ブラジルを離れた移民たちの在外投票にはあまり関心を寄せてこなかった。他方、在日ブラジル人に関する研究者は、教育や労働など社会問題に注目してきたため、遠くブラジルで実施される選挙になぜ在日ブラジル人が参加するのかという点は十分に研究してこなかった。その背景には、

ブラジル移民の研究者で投票行動に関する方法論を理解したものが少なく、具体的な調査が出来なかったこともある。

国際的な研究動向に目を転じてみても、世界中の移民研究を扱う国際社会学会（ISA）や世界各国の政治を研究するアメリカ政治学会（APSA）などの国際学会でも、在日ブラジル人の在外投票に関する研究は例がない。しかし日本の事例は入管法によって入国できるブラジル人に制限をかけ、日系人という特定の集団のブラジル人を多く含んでいるため、有権者の社会属性において同質性が高い。その特殊な条件を持った日本の事例は今後、国家間の比較分析を行う際に大いに役立つ可能性を秘めているのである。

当日のディスカッションでは、大泉市で現地取材して本ドキュメンタリーを制作した NHK 番組ディレクターの大島悠也さん、本学後期課程の院生で日系移民のアイデンティティを中心に研究をすすめる、今回の選挙でも投票権を有する立場から実態を調査した小島クリッシイリかさん、東京大学の博士課程でブラジル政治を研究する安良城桃子さんに、それぞれの立場から登壇を依頼した。そして最新の研究の成果もふまえて、世界の在日ブラジル人の投票行動の動向と在外移民の市民権に関する課題について紹介していただいた。

当日の反響は編者の予想を超えた。今回の内容を記録として出版してほしいとの声を多数いただいたことをうけて、編者が本企画を共催となった東京外国語大学・海外事情研究所に持ち込み、さらに在日ブラジル人研究の第一人者で、小島さんと同じく自身も投票権を有する武蔵大学のアンジェロ・イシ教授に巻頭言を依頼して出版にいたった。本書の出版を通じて、在日ブラジル人をめぐる政治と社会に関心のある一般読者や学生、移民の投票行動やアイデンティティを対象にした問題に関心のある大学院生や研究者、ラテンアメリカ移民を中心とした多文化共生の業務を担当する JICA 職員や地方自治体職員などの実務家などの間で、さらに議論が深まることを期待したい。

最後に本企画を実施するにあたり、東京外国語大学多言語多文化共生センターと東京外国語大学海外事情研究所から支援を頂いた。また、当日の運営を担当してくださった大学院生の皆様にも、この場を借りてお礼申し上げる。

（編集・司会：舩方周一郎）

## 目次

- 刊行にあたって (舛方周一郎) 1
  
- 巻頭言  
在日ブラジル人／在外ブラジル人の私が大統領選時に同胞に  
訴えたこと (アンジェロ・イシ) 5
  
- ドキュメンタリー内容紹介  
NHK『同時ドキュメント 群馬・ブラジル大統領選挙』 13
  
- ディスカッション  
ブラジル大統領選における在外投票の意味と在日ブラジル人の  
選択  
(舛方周一郎・大島悠也・小島クリッシイリか・安良城桃子) 15



## 巻頭言

# 在日ブラジル人／在外ブラジル人の私が 大統領選時に同胞に訴えたこと

—アンジェロ・イシ

私は1990年に日本の大学院に留学し、デカセギ目的で来日して定住化したブラジル出身の人々の歩みを社会的に研究してきたいわゆる「日系ブラジル人三世」である。専門は国際社会学とメディア社会学だが、移民研究の傍ら、ブラジルに関する本（『ブラジルを知るための56章』）を書いたり、東京外国語大学でポルトガル語を教えたりしたこともある。

このたび、編者の舛方先生よりこの「巻頭言」の原稿依頼を受けた時、私はまず、自分が昨年のブラジル大統領選の投票日にどこで何をしていたか、そしてその4年前、8年前、12年前など、以前の大統領選時にどこで何をしていたか、記憶を呼び起こすことから始めようと思った。なぜならば、私の境遇は本書で紹介される座談会の参加者の一人である小島クリッシイリかさんと似ていて、研究者である以前に、投票する権利と義務を有する「在日ブラジル人／在外ブラジル人」の一人であるので……。

4年前や8年前については後ほど述べることにして、まずは2022年の大統領選の投票日（10月6日）について回想してみたい。当日、私は混雑を避けるために、家族でゆっくり都内の美味しいシュラスコ料理店で早めのランチを済ませてから、高田馬場方面に移動して列に並ばずに投票しようと考えた。これが思わぬエピソードを生んだ。あらかじめ上司に事情を説明して遅めに出勤する許可をもらい、朝一番に投票を済ませてきたという、この店で勤める知人が、「危なかったよ、あわや13という間違っただボタンを押すところだった！ 君たちも気をつけてね、22だからね…」（13

はルーラの番号、22はボルソナーロの番号である)と興奮ぎみに話しかけて来たのである。私は沈黙した。「君たちも当然22だよね?」という彼の発言に対して私のリアクションがあまりにも冷やかだったせいか、彼は「まさか、あなたはルーラに入れるつもり?」と、ショックが隠せない様子であった。その後の私と彼とのやりとりを詳述すると私がどういう理由でどちらに票を入れたかを明かすことになるので、それは避けて、かわりにこの選挙戦について私が在日ブラジル人向けの情報誌 *Alternativa* (東京で隔週発行され、全国で配布) に寄稿したコラムを紹介する。私は同誌で2004年より *Ponto de vista* というオピニオン欄を連載しているが、549号で「*O voto que nos divide*」(直訳なら「私たちが分断する票」だが、「私たちが分断する投票」の意) という文章を綴った。少々長いが、本書のテーマと深く関連しているので、以下、全訳してみたい。



**a ponto de vista** | OPINIÃO

**ANGELO ISHI**  
Jornalista, sociólogo e professor do departamento de mídia e sociologia da Universidade de Musashi, em Tóquio  
angeloalternativa@hotmail.com

## O VOTO QUE NOS DIVIDE

Escrevo esta coluna no dia 6, depois de ter votado no primeiro turno e muito antes de repetir no dia 30 o ritual no segundo turno das eleições presidenciais.

Votar no Japão – exercer o direito/dever do voto, mesmo estando longe do Brasil – é sempre um momento único, uma mescla de sentimentos: emoção com reflexão, diversão com apreensão, preguiça de enfrentar filas com sensação do dever cumprido, orgulho misturado com uma pitada de inevitável descrença...

Minha seção eleitoral fica em Tóquio. Para fugir das filas, fui só à tarde. Fiquei bem satisfeito com o novo local da votação, em Takadanobaba, com teto alto e espaços amplos. E, a poucos minutos de uma estação da linha Yamanote.

Além de sentir o clima e decifrar o que se passa pelas mentes de uns e de outros, ir votar é divertido também porque é uma oportunidade de reencontrar conhecidos, amigos, e desta vez, até uma prima que já não via há anos!

É evidente que estão todos – uns mais discretos, outros bem diretos – querendo sondar em quem você votou. E, especialmente nesta eleição, polarizada ao extremo, estamos todos passando por saias justas.

O que mais me constrange é que uma pessoa vem falar comigo convicta de que votei no A, e logo em seguida, outra começa o papo convicta de que votei no B... Aí eu fico me perguntando, qual terá sido a pista que eu andei dando para deduzirem minha opção de voto?

Estou inscrito em dois grupos de WhatsApp com membros que têm perfis radicalmente opostos. Em um, chovem postagens pró-Lula. Em outro, chovem postagens pró-Bolsonaro. É como se eu vivesse em mundos paralelos... O moderador de um grupo pede a toda hora que se evite postagens de conteúdo eleitoral. O moderador do outro grupo deixa liberado para um festival de discursos agressivos e, infelizmente, propagação de “fakes”.

Qual dos dois está certo como moderador? Aí vai depender de como cada um encara a famosa frase “política, religião e futebol não se discute”. Na verdade, essas são as três coisas que mais as pessoas deveriam aprender a discutir de forma civilizada, sem ferir a honra de quem está no outro time – e sem perder preciosas amizades por causa de uma divergência. ☺

**A SUA OPINIÃO É MUITO IMPORTANTE!**

Deixe o seu comentário sobre o tema e inscreva-se nas nossas redes sociais.

Os melhores comentários concorrerão a uma caneca exclusiva por edição.

revistaalternativaoficial  
alternativa.online  
Alternativa Online

【図1】  
*Alternativa* 誌549号の  
オピニオン欄 *Ponto de vista* の誌面

## 私たちを分断する投票

「私は大統領選の投票を済ませた6日に、つまり30日の決選投票より前にこのコラムを書いている。日本にいながら投票すること、ブラジルから遠く離れていながらも投票の権利と義務を行使することは、常に唯一無二のひと時であり、様々な感情が交錯する：感動と熟考、楽しみと不安、列に並ぶのは嫌だという気持ちと義務を果たしたという充実感、誇らしさに交わる不可避な不信感……

私の投票場所は東京だ。列を避けたくて、午後に出向いた。今年、初めて使われた高田馬場の投票会場には大いに満足した。天井は高く、スペースも広々としており、山手線から少し歩けば着きやすい好立地であった。

特別な雰囲気を感じ、他の人たちの心中にどのような考えが宿っているのかを想像するのに加え、投票に行くもう一つの楽しみは、知人や友人と再会する機会でもあるからだ。今回はなんと、ある従姉妹と10年ぶりにバッタリ会えた！

そして案の定、誰もが（人によっては遠回しの質問で、人によってはストレートに）お互いに「こいつは誰に票を入れたか」を探ろうとしている。とりわけ分断が極端になった今回の選挙では、私たち全員が気まずい経験を強いられている。

私が最も困惑するのは、ある知人が私は当然ながらAに票を入れたはずだという前提で話しかけて来て、その直後に、別の人は私が当然Bのほうに票を入れたらうという前提で話しかけて来るからだ……そこで私は自問する、果たして私はいつ、自分がどの候補者を支持しているかを匂わす何らかのヒントを与えてしまったのだろうか？

私は二つのWhatsAppグループに入っているが、それぞれのメンバーの考えは対極的だ。一つのグループでは、ルーラ支持の投稿が続く。もう一方のグループでは、ボルソナロ支持の投稿ばかりだ。まるで私が二つのパラレル・ワールドに生きているかのようだ……一つのグループでは、モデレーターが必死に「選挙キャンペーン的な投稿は止めてください」と注意している。もう一つのグループでは、ヘイトスピーチやフェイクニュースに満ちた投稿に対してモデレーターは何も咎めず黙認している。

どちらがモデレーターとして正しいのか。それは皆様があの有名な「政治と宗教とサッカーは討論の対象にしてはならない」という諺をどう捉えるかによって、評価が異なってくるだろう。本来なら、この三つのテーマは人々が最も節度を保って議論し合えるように努めるべきなのであり、対極にいる者を傷つけないように配慮し、大切な友人を意見の不一致のせいで失わないように心がけるべきなのだ。」

## 分断の歴史は古い？

私が以上のコラムで在日ブラジル人読者に冷静さを求めたのは、大統領選で誰を支持するかが理由で長年の友情が崩れて互いに絶縁するほどの不和が、前回（2018年）の選挙を機に私の周りでも起きたからだ。座談会で安良城さんが紹介した政治学用語である「感情的分極化」という現象が、少なくとも2018年にはすでに顕在化していた。そして2022年の選挙戦でも、とりわけコラムでも触れたWhatsApp（ブラジル人が最も利用するSNS）での投稿合戦を通して、熾烈な論戦（非難の応酬）が繰り広げられた。

実は2000年代から、政治的イデオロギーによるコミュニティの分断の前兆はあった。リーマンショック後の雇用危機で多くの在日ブラジル人が失業するなか、コミュニティリーダーが全国的な組織を結成しようとしたが、あまり支持が得られなかった。不支持の理由の一つは、自称「ルーラの親友」を名乗る、熱狂的な労働者党員がこの組織のリーダーとして目立っていたからだ。

なぜ、他の国や地域に住むブラジル人に比べて、日本在住のブラジル人の投票結果はこれほどまでにボルソナーロの圧勝となったのか。この問いに対して私は即答できないし、答えを急ぐべきではないと考える。ただ、ボルソナーロ支持者が多いというよりは、「労働者党アレルギー」が根底にあることは間違いなさそうだ（したがって、安易にボルソナーロを「ブラジルのトランプ」に例えたりすると本質が見失われる可能性がある）。そしてなぜこれほどまでに労働者党アレルギーが強いのか、これこそが研究者たちにとってやり甲斐に満ちた難問（＝研究課題）である。

座談会でも話題になっているように、「日系人」が大多数を占める在日ブラジル人の「同質性」はきっと重要なポイントだろうし、「汚職で有罪判決が出て投獄までされたルーラを大統領に返り咲かせるのは許せない」という論点を強調したボルソナーロ陣営のマーケティング戦略が「真面目で誠実」という集団レベルの自己イメージを保持する日系人に強く響いたとも考えられる。

## 「動員意欲」の格差？

座談会での「全在日ブラジル人の8割がボルソナーロ派なのかはより慎重に分析が必要」という小島さんの指摘は重要である。私の仮説では、日本における（異常な？）ボルソナーロ寄りの投票結果は在日ブラジル人の総意を表していない。つまり投票に行かなかった有権者の意識を何らかの形で調査できたなら、「投票に行けばルーラに一票入れていただろうけれど、わざわざ投票には行かなかった」という人々が多かったことが確認できたかもしれない、という推測である。別の言い方をすれば、日本でボルソナーロが圧勝した理由の一つは、ボルソナーロ支持者がより積極的に「投票へ行こう、投票に行かなければ」という呼びかけをした結果かもしれない（これが主因であると主張するつもりはないが）。ノイジーで誇らしく真っ黄色に染まっていたボルソナーロ支持者

とは対照的に、私が接したルーラ支持者は（おそらく身の危険を感じて）総じてサイレントで、労働者党のシンボルカラーである赤色も着ていなかった。WhatsApp でも、ボルソナロ支持者が遠慮も節度もなくルーラバッシングを展開したのに比べ、ルーラ支持者は（おそらくサイバーリンチのリスクに怯えて）ほぼ沈黙していた。いわば「動員意欲」の格差が生じたのではなかろうかと。

冒頭で述べたとおり、私は以前の大統領選時にどこで何をしていたか、その記憶を呼び起こそうとした。振り返れば、モチベーション不足で投票に行かなかった年もあるし、日程が大学の入試業務と重なったために行けなかったこともある。今回も、誰がどの理由で投票に行かなかったかという点に興味津々である。

NHK の『同時ドキュメント』は、大統領選挙で投票に行った在日ブラジル人たちの貴重な記録であり、その番組を上映してディレクターの大島さんが登壇した今回の座談会はとても有意義である。この番組は在日ブラジル人が誰に投票するかという「選択」、ルーラ支持者とボルソナロ支持者の違いに注目したが、それ以前に「投票に行くか否か」、そして「選挙キャンペーンに積極的に関与するか否か」という「選択」があったのだ。

私は「在外ブラジル人としての在日ブラジル人—ディアスポラ意識の生成過程」という論考（イシ 2011）で、2010 年代は日本在住のブラジル人が「世界におけるブラジル人」の一員、すなわちブラジル系ディアスポラの一員としての自覚を強くした時期であったことを提示している。そして様々な政治イベント、メディア・イベント、ビジネス・イベント、文化イベントの具体例を挙げ、これらを通して、在日ブラジル人が米国や欧州のブラジル人との繋がりを深めたと分析している。

統計の数字だけを見れば、在外ブラジル人（在日ブラジル人も例外ではない）の投票率は以前も今も低い。しかし、数字に現れにくい「熱気」や選挙戦全般への個々人のエンゲージメント（積極的な発信や意見表明への意欲）については、明らかにこの 10 数年間で高まっているように見える。そして私の実感では、日本在住のブラジル人の間で大統領選挙に関する議論やエンゲージメントが直近の選挙でヒートアップしてきた理由の一つは、単に出身国ブラジルに目が向いているからだけではなく、在外ブラジル人としての意識が高まり、米国や欧州各国のブラジル人とのコミュニケーションが活発化していることにも起因している。すなわち、他国在住の在外ブラジル人の動向や投票行動に対する注目度の高まりが、在日ブラジル人のブラジル大統領選への関心の度合いを高める効果をもたらしたのではなかろうか。

## 異様な光景ではなく

座談会では舩方先生が「多文化共生」というキーワードも出していたので、最後に一点、釘を刺しておきたい。日本に在住しているブラジル人が出身国の大統領選でこれほどまでに盛り上がり

ている様子を『同時ドキュメント』で観て、「この人たちは日本にしながら意識や視線はブラジルにばかり向いている」と誤解されたくない。

群馬の選挙会場に集まった人々は、「在外ブラジル人」としてのアイデンティティもちろん保持しているが、「大泉町民」あるいは「どこそこ県民」、さらには「日本社会の一員」としての意識も大なり小なり育んでおり、それらは全て両立可能である。人々が複合的で多種多様な帰属意識を持つことに対する理解と想像力、意識のグローバル化こそが共生社会を実現する鍵となる。番組で描かれたのは決して「異様な光景」ではなく、しゅしゅ「移民」に開かれつつある日本の新しい日常の一コマなのだ。

#### 引用文献：

イシ、アンジェロ（2011）「在外ブラジル人としての在日ブラジル人——ディアスポラ意識の生成過程」、  
日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房、231-251 頁。

Ishi, Angelo (2022) O voto que nos divide. *Alternativa* 549 号、2022 年 10 月 20 日発行。





## ドキュメンタリー内容紹介

### NHK『同時ドキュメント 群馬・ブラジル大統領選挙』

運命の日に交錯するさまざまな思いを描く。1つの現場の定点観測ではなく、複数の現場にカメラを出し、あるイベントを同時進行で撮影する、「72時間」制作チームが送る新型ドキュメンタリー番組。今回はブラジル大統領選挙。群馬・大泉町の在日ブラジル人向けの投票所やブラジル食材のスーパー、教会やリオデジャネイロのバーで、4台のカメラが同じ時間に撮影を開始。いったいどんなドラマが紡ぎ出されるのか。



## ディスカッション

# ブラジル大統領選における在外投票の意味と在日ブラジル人の選択

— 舩方周一郎・大島悠也・小島クリッシイリか・安良城桃子

### 登壇者自己紹介

**舩方周一郎:** それではここからディスカッションに入りたいと思います。登壇されている方々それぞれ、自己紹介をお願いしますでしょうか。

**大島悠也:** こんにちは、NHKで番組制作のディレクターをしています大島と申します。僕はいま東京で番組をつくっているんですけど、2022年4月から11月までは社内派遣の制度に応募してNHKの前橋放送局にいました。そこで、ずっと群馬にいる外国人を、ブラジル人だけじゃなくて、イスラム教徒とかベトナムの人とか、外国人の素顔を継続的に紹介していくというキャンペーンの立ち上げを行い、番組を作っていました。その流れで、ブラジル大統領選挙のことを知り、今回の番組を全国放送でつくらせてもらったという経緯があります。この番組を通してブラジルが大好きになってハマっています。よろしくお願いします。

**小島クリッシイリか:** 東京外国語大学大学院博士後期課程1年の小島クリッシイリかと申します。普段はブラジルの日本移民の歴史や日系人のアイデンティティについて研究しています。名前からもわ

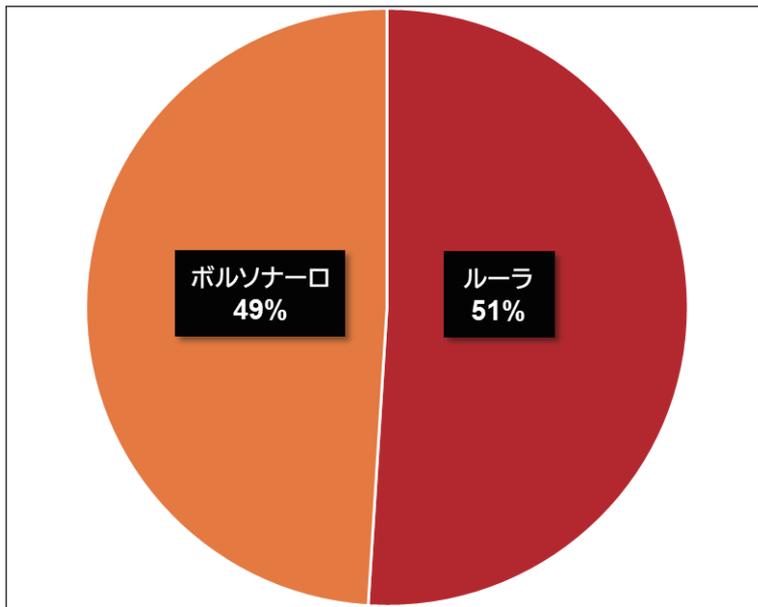
かるようにミドルネームが入っているわけですが、両親が日系ブラジル人であり、どちらもブラジル生まれ・ブラジル育ちです。デカセギとして両親はブラジルから来日し、私は日本で生まれました。今回は、群馬県の大泉町が取り上げられていましたけれども、私はお隣の栃木県に住んでいて、自宅から大泉町までは30分くらいであり、週末はよくブラジル・スーパーに通っています。なので、普段から現場を見てきており、今日はその様子を皆さんにお話しできたらうれしいです。どうぞよろしくお願いたします。

**安良城桃子：**安良城桃子と申します、よろしくお願いたします。私は現在東京大学大学院の博士後期課程に在籍しているのですが、学部はこちら〔東京外国語大学〕でポルトガル語を専攻していました。今はブラジルの治安政策と市民に対する暴力を主に研究しています。日頃、舩方先生と小島さんと一緒に研究や勉強をする機会が多くあり、10月30日の大統領選挙第二回投票の観察や、本ディスカッションに参加する運びとなりました。

**舩方：**私も簡単に自己紹介すると、群馬県高崎市の出身で、姉が大泉の近くに住んでいることもあり、大泉にも何度も訪問したことがあります。では座談をはじめていきたいと思います。まず、大島さんにお伺いします。このドキュメンタリーを制作するために大泉で長い期間、取材をされていましたが、このドキュメンタリーにはどういったメッセージを込めていたのでしょうか？

## ドキュメント制作にかけた想い

**大島：**そうですね、さっきもちらっとお話ししたんですけれども、もともと群馬というのは比率で言うと全国で三番目に外国人が多くて、ブラジルの人だけでなくベトナム人とかネパール人とかいっぱいいるんです。一方で日本人と外国人のコミュニティというのがまだまだ分断しているんじゃないか、という問題意識とかもあって、年間を通じて外国人の素顔やライフスタイルなどを紹介していくっていうキャンペーンを立ち上げたんですよね。その中で、ブラジルの人を紹介していくっていうのをやってたままこの選挙っていうのを知って番組を作ることになりました。番組のメッセージでいうと、選挙について、結構ブラジルの人にははっきりと、「自分はこういう人を支持していて」、「国はこういう風になってほしい」とか、そういうメッセージというか想いみたいのが強いっていうのを事前の取材でも感じていました。それで調べていたら、わりと選挙当日はイベントっぽくなる、そういう情報もあったんで、この一日に密着したら、面白い番組になるんじゃないかと思ったんです。日本人ってけっこういま、政治とかに対して冷めた目みたいな、期待していないとか、無関心みたいっていうのを



【図 1】 第二回投票 投票結果  
(※小数点以下は四捨五入した)

有効投票数のうちの得票率  
(出典：Tribunal Superior Eleitoral (高等選挙裁判所、TSE) に基づき安良城作成。  
<https://resultados.tse.jus.br/>  
[最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日])

強く感じていたので、ブラジルの人たちの政治に対する関わり方とか、想いみたいなものを通して、自分たちももっと社会に対していろいろ考えていかなきゃいけないんじゃないか、というメッセージが伝わるんじゃないかなと思って企画書を書きました。実際にロケしてみると、予想以上にお祭り感があってブラジルの旗を持ったりとか、けっこうびっくりしましたけど。

**舩方：**そうですね、日本の選挙とブラジルの選挙の様相はだいぶ異なっているというのがこのドキュメンタリーでもよくわかったのではないかと思います。日本ですと選挙には冷めた印象がある一方で、ブラジルの場合は非常に熱くなっている。それだけ選挙が自分たちに大きくかかわる問題として考えていることがわかったのではないのでしょうか。それではここから安良城さんにお伺いしたいのですが、安良城さんは先ほどの自己紹介でも治安政策などのブラジル政治を中心に研究されていると仰っていました。さきほど大島さんもお話して下さったことでもありますが、ブラジルの今回〔2022 年〕の大統領選挙をどのように分析されましたか。

## 2022 年ブラジル大統領選挙の分析

**安良城：**ありがとうございます。今回の選挙を通じ、ブラジル国民間の激しい分断が見られたことを感じています。(大統領選挙第二回投票の投票結果〔図 1〕をスライドで見せながら) 第二回投票の結果はルーラが 51%、ボルソナーロが 49% で、非常に拮抗していると分かります。こういった数の面での分断、世論が二分されているということに加え、感情的な対立も非常に深刻だったといえます。先ほどのドキュメンタリーに登場したリオデジャネイロに住む女性のような声を聞くと、や

【表 2】 社会的属性と 2022 年大統領選決選投票における投票意志、政党支持態度

	ルーラ (PT) への投票意志	ボルソナーロ (PL) への投票意志	労働者党 (PT) への支持	自由党 (PL) への支持	労働者党 (PT) への拒否意識	自由党 (PL) への拒否意識
全調査対象者	49	44	35	20	39	28
世帯月収(リアル)						
0 ~ 2,424	61	33	44	14	28	34
2,424 ~ 6,060	40	54	29	25	50	23
6,060 ~ 12,120	32	60	21	32	56	23
12,120 ~	36	59	22	32	52	25
教育						
初等教育修了	60	34	42	14	27	34
中等教育修了	45	49	33	23	44	25
高等教育修了	43	48	29	24	47	27
地域						
南東部	44	48	31	21	42	25
南部	36	58	24	25	50	19
北東部	67	28	50	15	26	40
中西部	40	53	25	24	46	21
北部	48	47	30	21	42	26
年齢						
16 ~ 24	53	39	37	15	34	25
25 ~ 34	44	50	34	24	46	27
35 ~ 44	47	45	33	23	43	28
45 ~ 59	51	42	37	18	37	30
60 ~	51	43	33	20	36	31
性別						
男性	46	48	33	23	43	28
女性	52	41	36	17	36	29

(注)「労働者党 (PT) への支持」「労働者党 (PT) への拒否態度」については回答者が労働者党ではなく「ルーラの政党」と答えたケースが、「自由党 (PL) への支持」「自由党 (PL) への拒否態度」については回答者が自由党ではなく「ボルソナーロの政党」と答えたケースが、それぞれ含まれている。引用元である菊池 (2022) 表 3 は、2022 年 10 月 25 ~ 27 日に実施された世論調査会社ダッタフォーリャの調査結果に基づき作成された。

(出典：菊池啓一 (2022) 『否定的党派性と 2022 年ブラジル大統領選』日本貿易振興機構アジア経済研究所。  
[https://www.ide.go.jp/Japanese/IDEsquare/Eyes/2022/ISQ202220\\_034.html](https://www.ide.go.jp/Japanese/IDEsquare/Eyes/2022/ISQ202220_034.html) [最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日])

はり貧困層にとって、古くからの格差の問題を改革することが、重要視されている。そして、それがルーラへの支持に繋がっていることが見えてきます。しかし、他方のボルソナーロ支持者を見ても、彼らが望んでいるのは経済、治安、汚職の改善。どちらも自分たちの置かれた現実在即し、よりよい生活、よりよいブラジルに向けた変革を切実に望んでいるのだと感じました。そう考えてみると、ルーラとボルソナーロは非常に異なる候補のように思えるわけですが、実際にその支持者が望んでいることは自分の生活を改善するという切実な思いであって、実は通じるところが多いのではないのでしょうか。にもかかわらず、相手候補、ひいてはその支持者に対する不信は非常に深刻なものとなっています。相手候補の支持者への敵対心は、抗争にもつながり、殺害が起きるような事態まで至っています。

ここで、この状況をアジア経済研究所の菊地〔啓一〕先生がどのように分析しているか、少しご紹介させていただきます。今申し上げたような感情的な対立が非常に深刻な状況を、菊地先生は「感情的分極化」という、アメリカ政治の分析において用いられてきた概念を適用して説明しています。「人々が他党の支持者を、偽善的、利己的、閉鎖的であると感じ、他党支持者との交流を拒むほどの敵意を持つ状態。」このような感情的分極化というものが、ブラジルでは今進んでいるのではないかということです。また、特定の政党への拒否感が非常に強い状態（否定的党派性）が、感情的分極化に影響を与えたのではないとも言われています。（菊池（2022）の分析〔前頁表2〕を見せながら）第二回投票の数日前に行われた世論調査を見ると、中流層にあたる世帯月収2,424～6,060 レアルの回答者については、ボルソナーロが出馬している自由党に対する支持（25%）よりも、ルーラが出馬している労働者党に対する支持（29%）の方が高いといえます。一方、労働者党への拒否意識は50%と非常に高くなっています。政党ではなく候補者に対する投票意思では、ルーラへの投票意思40%、ボルソナーロへの投票意思54%ということで、ボルソナーロへの投票意思が高くなっています。つまり、労働者党への拒否意識が高いがゆえに、ボルソナーロへの投票意思が高くなっている可能性がある」と説明されています。地域別に投票意思を見ても、南東部、南部、中西部において、類似した状況が見られます<sup>1</sup>。

また、より貧困である層（世帯月収2,424レアル以下）ではルーラへの投票意思が強く、中流層と富裕層（世帯月収2,424レアル以上）においては、ボルソナーロへの投票意思が強く出ているということも分かります。このような傾向を今回の選挙では見て取ることができました<sup>2</sup>。

**舩方：**安良城さん、ありがとうございます。感情的分極化という言葉が出てきました。政治学の用語として最近よく使われるようになりました。単なる政治的な対立だけではなく、その対立に感情が含まれていることでより分極化をややこしくしている状況のことを表しています。多分皆さんも、おそらく実感されていることではないかと思いますが、ツイッター〔当時。現在のX〕上で様々な画像が拡散されたり、自分が信じていると思うもの、信じたいという気持ちが生まれたりするのには憎しみや悲しみといった感情が含まれているからではないかということです。私もブラジルで一か月、大統領選挙の調査に行きましたが、とても優しくなおばあさんと話していた時に、ルーラ派だった彼女に、ボルソナーロもこういうところを伝えたいんだと説明したら、とても怒られてしまったことがあります。あんなに優しくおばあさんが、ものすごい剣幕となり、これだけ優しい人を憎しみの感情に変えてしまう状況を目の当たりにしました。安良城さんがお話しされた通り、今回の選挙では市民の拒否反応が非常に強く表出されている。好きだからこの人に投票するというよりも、この

<sup>1</sup> 南部、中西部においては労働者党への支持と自由党への支持は同程度（どちらも低い）。

<sup>2</sup> 菊池啓一（2022）「否定的党派性と2022年ブラジル大統領選」日本貿易振興機構アジア経済研究所。 [https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2022/ISQ202220\\_034.html](https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2022/ISQ202220_034.html) [最終アクセス日2023年12月8日]。

人だけが嫌いだからこの人に入れたくないという気持ちが今回の選挙で現れていたということがわかります。他にも安良城さんがお話をしたことにはいくつか重要なポイントがありました。投票行動といわれているものですが、様々な社会的な属性にあたるものです。つまり所得や、教育レベルによって、ルーラに支持するのかボルソナーロに支持するのかを決めるというものです。それからもう一つ重要だったのは、個人に対する投票の意識と、政党に対する意識が異なっているということです。労働者党が嫌いだけど、ルーラが好きだ。あるいは、自由党についてよく分からないのだけど、ボルソナーロが好きだ。といったように、政党と個人の支持が、必ずしも一致していない現象もこの表から見えてきます。おそらく労働者党が嫌いだけどルーラを支持している人たちが今回の選挙では結構いたということもわかります。では今度は小島さんに伺います。小島さんは今回の大統領選では第一回、第二回とも投票会場に行ったそうですね。

**小島：**はい。ドキュメンタリーに映っていた一回目の投票と決戦投票〔第二回投票〕、どちらにも朝から参加いたしました。

**舩方：**そうですね。選挙戦に至るまでのブラジル人コミュニティの様子はいかがでしたか。

## 選挙戦に至るまでの日系コミュニティの様子

**小島：**そうですね。選挙戦にいたるまで、誰に投票するのかという話題は、二週間くらい前からじわじわと増えてきたなという印象がありました。それまではブラジル国内ほどの激しい議論はされていなかったのではないかと思っているのですが、二か月、一か月とどんどん近づいてきて、選挙話が増えていきました。そして当日ですが、ドキュメンタリーでも登場したように、深夜に、〔午前〕2時ごろから列に並ぶ方や場所取りなどをしている方がいらっしゃいましたけど、決選投票でも同様にそういった人々がいました。投票開始時刻は〔午前〕8時だったのですが、私は朝の6時半に既に会場に到着していました。しかし、開始1時間半前に到着しても、もう列がすでにできており、各投票セクションには番号がふってあるのですが、それぞれ大体5人から10人ほどが並んでいました。話を聞いてみると、長野県の上田市からきた方がいまして、その方は前日に仕事が終わってすぐ、〔午後〕10時に長野県を出発して、深夜の〔午前〕1時から2時ごろに大泉町に到着し、場所取りをしてから、少し車で仮眠をとって、「そろそろ人が出て来たなあ」というところまで待って、場所取りしてあったところに行き、並んだそうです。皆さんがとても熱心なのもあるのですが、そもそも2018年の選挙を思い出してみると、当時の投票会場はとても混雑していたのです。過去に2、

3時間列に並ぶということが起きていたので、今回も混雑するのではないかと予想がされ、深夜から並ぶ方々がいたのではないかと思います。

**舩方：**ありがとうございます。私は大統領選挙の第一回投票の時はブラジルにいたので、大泉に行けなかったのですが、4年前の大統領選挙の時は、私は五反田にあるブラジル総領事館の前で投票にかけつけたブラジル人の友人と3時間一緒に並びました。ブラジル人ではないですけども途中まで列に並び、途中で止められてしまいました。あなたブラジル人じゃないでしょって。でも面白かったです。3時間並んでみると、その場でいろんな人が噂話したり、誰に入れるかを話していて、実態が見えてきました。4年前の私の経験に引きつけて言えば、今回の選挙でも投票会場に早く来た方たちもいたことも想像がつきます。

さきほどみたドキュメンタリーのとおり、安良城さんや小島さんは、10月30日に行われた決選投票〔第二回投票〕をその場で参与観察されたそうですが、その時の状況はどのような感じでしたか。ブラジル人に対してインタビューもされていたようでしたが。

**安良城：**それではスライドを変えて、当日の様子の写真や簡単なインタビューを行った様子をお伝えしたいと思います。これ（スライドの写真）は、10月30日の第二回投票です。第一回投票で過半数をとる候補者がいればその第一回投票で選挙は終わりなのですが、そのような候補がいなかったんですね。そのため、上位二者（ルーラとボルソナーロ）での決選投票ということになったのが、この第二回投票です。まず、これは当時の朝に小島さんが撮ってくださった写真なんですが、何時ぐらいですかね。

**小島：**〔投票が〕始まる前でしたので、おそらく8時前の写真ですね。

**安良城：**ありがとうございます。とても長い列が見えると思います。ここは「大泉町文化むら」という大泉町の公共施設なのですけれど、すごくたくさんの方がいるというのが分かります。こちらの写真も別の角度から取っているのですが、すごく人がいる、画面いっぱいまで並んでいるのが分かると思います。

これはボルソナーロ支持者の方だと思うのですが。番組の中でも出てきましたけれども、ボルソナーロ支持者は黄色や緑の服を着るなどの特徴が見られますが、こういった方々が国旗を持って記念写真を撮っていました。番組のように車の上に国旗を掲げている方がいました。

この方も、どちらの支持者かは分からないのですが、国旗を持ってきていました。

**舛方：**赤なので、ルーラ派かもしれないですね。

**安良城：**そうですね。バイクが赤なのですが、簡単に塗り変えられるものじゃないので、ちょっとわからないねという話を当日していました。圧倒的にボルソナーロ支持者の方が多く、当日私たちがいたときにあまり赤い服を着た人を見つけられなかったんですね。ここにも映っているのですが、やはり全体的に黄色の服を着ている人が多いです。

これは、後で動画でも見せたいと思うのですが、最後、投票の締め切り時刻になって、「はい、急いで」というふうに案内の人に声をかけられて大急ぎで走って投票場に駆け込んでいく様子です。これは Boletins de Urna（写真上のレシートのような紙）というんですが、投票が終わって数時間後に、会場の入り口のところに張られるんです。それぞれの投票の列において各候補への投票数がいくつだったかという結果を一枚一枚の紙が示しているんですね。番組の中でも、それを読み上げて動画配信している人が映っていたと思うのですが、第一回投票の時はちょっと開票の遅れがあったようで、これを見るために夜7時まで残った方がいたようなのですが。今回の第二回投票では17時半ぐらいで、大体10～15人ぐらい見に来ていました。

ここからは小島さんにバトンタッチしたいと思います。

**小島：**それでは、インタビューを紹介させていただきますが、その前に当日撮影したビデオを見せようと思います。1分半ぐらいのものです。

#### (会場内で動画再生を開始)

**小島：**この映像は投票終了までのラスト10秒あたりですね。入り口の前にいる人たちが「10、9、8、……」と投票終了時刻のカウントダウンをしていました。そのカウントダウン中に、最後の人が入っていきました。

そしてこれが Boletim というレシートみたいな形をした投票結果が貼り出される瞬間ですね。(映像を見ながら解説)

**舛方：**合格発表みたいな。

**小島：**そうですね。なので、自分のセクション番号と投票数を確認して、「私は投票をしたんだ」と実感する瞬間です。

投票終了時刻前に走っていた方々ですが、実はあの方々は終了のだいぶ前に到着していたよう

で、おそらく 30 分前くらいに到着していたのですが、やはり投票会場に来ると知り合いがたくさんいるので話し込んでしまっていたようです。そうしてあっという間に投票受付終了 10 秒前になってしまって、投票を済ませた他の来場者たちのカウントダウンで走りだしたという方々でした。映像は以上になります。

### (会場内での動画再生を終了)

**舩方：**イベントを行う際にみんなが集まる会場になっているということなのですね。

**小島：**私と安良城さんのところに 18 歳の少年と一緒にいたんですけども、急いでいる人々の姿は（ブラジルの）大学入試の様子を思い出すとっていました。

**舩方：**なるほど。試験に行く学生のようにということですね。遅れないようにということですね。はい、わかりました。ありがとうございました。インタビューの方もあるということ。

**小島：**はい。私たちは 3 名の方にお話を聞くことができたのですが、3 名ともポルトガル語でのインタビューをさせていただきましたので、受け答えはポルトガル語であり、ここでは日本語に訳して載せてあります。

まず一人目の A さんは若い男性で、20 代前半の方でした。サンパウロ州出身で、1 歳から日本に長く住んでいるので、日本で高校を卒業しています。ただ、その高校というのはブラジル学校だったとおっしゃっていました。A さんの親が、日本の高校に進学してしまったらいじめにあうのではないかと心配されていたようでして、なのでブラジル学校に通っていたようです。現在は日本人に囲まれた工場で働いているということでした。政治的意見について聞いたところ、政治についてあまり詳しくなく、両親と一緒に投票しにきたといい、両親が政治に熱心なので、彼らの意見に沿う投票を行ったということでした。このように、自分の政治的好みではなくて、親や友人などの意見に左右されてしまう、依存する投票行動というのは、「無責任投票」と呼ばれることがあります。また、日本人としてのアイデンティティが強いとっていて、将来はブラジルに帰るのかと聞いてみたら、「父はいずれブラジルに帰りたがっているけど、母と自分は日本に残りたい」という答えでした。

続いて B さんですね。この方は 10 代の男性で、パラナ州に住んでいた方です。パラナ州というのは、ブラジルの南部、サンパウロ州の南に位置しています。高校卒業までブラジルで過ごしており、現在は受験生で、日本の大学に進学するんだとキラキラした目で語っていました。大学卒業後はブラジルに帰る可能性があり、ポルトガル語も日本語も話せるということで、そういった言語能力を活

かしてまたブラジルに戻るんだと、おっしゃっていました。彼の政治的意見ですが、親とは政治的意見に対立はないとっていました。今回、「分断の大統領選挙」だったんですけれども、ブラジル在住の友人に聞いたところ、家族内でも政治的意見の対立が起きていると教えてくれました。親が一方を支持して、子がもう一方を支持するという事例がある中、Bさんの場合は家庭内ではとくにそういった対立はなかったとおっしゃっていました。Bさんと彼の両親にどのようなメディアを見るのかと聞いたところ、「Jovem Pan」という番組をよく見るんだといわれました。「Jovem Pan」というのはボルソナーロ派の方からの支持が高い番組です。

**舩方：**ブラジルの主要メディアはルーラ派の視点で事実をみることが多くボルソナーロに批判的な報道がされているように思いますが、この「Jovem Pan」の政治的な立ち位置はどのようになっていますか。

**小島：**そうですね。ボルソナーロ支持者からは、他のメディア媒体と比べると信頼できるものとして紹介される傾向がありました。また、「ルーラ政権の批判を行う」メディアとして挙げられていました。

**舩方：**ブラジルのメディアは、一般に批判精神があるので、現職のボルソナーロにも批判的です。しかしブラジルの市民の中には、その感覚が自分の意見と離れている方もいます。そのため、メディアとの乖離を感じている。また新聞メディアについてはブラジルでも1割ぐらいの読者層しかいないと言われており、メディアと読者の感覚は離れている状況もあります。他方、「Jovem Pan」は、いわゆる批判的な報道とは異なる形で報道を行っているメディアだと言われています。もちろん中立的な報道をこころがけているといえども、見る人によって大きく変わります。したがって「Jovem Pan」を右派的なメディアだという人もいれば、これが公平に報じている番組だという人もいます。

政治的な位置はあくまで何かと比べて理解するものです。したがって自分にとってはどこで共感を得るのか別の何かと比べればこれは右派だ、あれと比べればこれが左派だと線引きを個人で行っています。このように「Jovem Pan」の捉え方によってもだいぶ異なっているということが分かります。

**小島：**それでは最後に、三人目のCさんですね。AさんとBさんは10代から20代で、若い世代の方々だったのですが、Cさんは50代の男性でした。サンパウロ州地方部出身の方で、日本には約30年間住んでいます。なので、1990年に入管法が改正されてから、来日し、それからずっと日本に住んでおり、現在は工場勤務しています。彼とのインタビューでは1時間くらい話が止まらなくて、たくさんの情報をいただきました。政治的意見につきましては、まずはどちらに入れたかという質問に対して、ボルソナーロに入れたとっていました。彼の意見としては、ブラジルの大手メディ

アだったり、労働者党とルーラ候補者、高等選挙裁判所（Tribunal Superior Eleitoral, TSE）など、そういった機関に強い不信感を持っているとのことでした。なぜ在日ブラジル人の中にボルソナーロ支持者が多いのかという質問に対しては、「日本にいるブラジル人はルーラを支持する北東部の貧困層より教育を受けている」という意見をもらいました。そのため、「正しい情報がわかるんだ」というのが彼の意見です。さまざまな意見がある中で、ボルソナーロ派の一つの主張としてここで紹介させていただきました。

**舛方：**ありがとうございます。在日のブラジル人に対して、フェイクニュースに騙されて、現実をよく分かっていないと発言される方が多いですけれども、この発言をされている方は、むしろ自分たちのほうが現実を良くわかっていて、左派の人たちのほうが教育を受けていないから分かっていないという発言がされています。やはりそれぞれに違う立場で批判し合っていることが見て取れるかなと思います。非常に有益なインタビューの様子でした。

次に大島さんにお伺いします。この会場に来ていらっしゃる人の中にはひどいことを言っているなあと思う人もいたかもしれません。ただ、今回のイベントを行うきっかけとして、語るものを悪者にしたくないというのがありました。やはりお互いに正しいと思ったり誰かを応援したいという気持ち、そういったものに寄り添っていききたいなあって思って。そういったお互いがあゆみよる気持ちをなくしてしまうと、もっと分断が進んでしまいます。ここにいらっしゃるかたは、色んな考えを持っていると思うんですけれども、それぞれがあくまで見方の一つとして捉えていきたいです。まさに今回の群馬での選挙では8割、9割という高いボルソナーロ支持者がいたわけですがその結果とそれをめぐる解釈が偏見を深めるよりもお互いの理解を深める機会になればと思っています。

今回の取材では、ルーラが貧困者を救済する人、ボルソナーロが差別主義者で弱い立場の人を攻撃する人という報道が多かったような気がします。しかし、ブラジルの現地報道と大泉の選挙戦で違ったといったようなことはありましたか。

## ブラジル現地報道と大泉での選挙戦の違い

**大島：**いま、安良城さんと小島さんがおっしゃっていたような、その感情的な分極化とか、拒否反応みたいなものを、ずっと取材していて感じていて。ボルソナーロを支持する理由がなんでって、ルーラが泥棒だからとか、ルーラが嫌だからとか、その理由がすごく多かったと感じました。

日本のテレビだと、4年前の選挙でも、例えばNHKのニュースとか見ると、基本的には「人種差別主義者の民主主義を破壊するボルソナーロ」というとんでもないやつが出てきて、まさかそんな

やつが当選してしまった」。こういう文脈で伝えられました。今回の選挙も、基本的には同じで、「コロナの政策で大失敗して、アマゾンの森林を破壊し、ブラジルをめちゃくちゃにしたボルソナーロに対して、ルーラという、善良っていうか、基本的には良心的な人が挑む」みたいな伝え方がされていましたね。けど、実際大泉に行って在日ブラジル人に話を聞くと、真逆、ほとんどがボルソナーロ派でした。事前の取材で30人ぐらいに話を聞いているんですけど、本当に2人しかルーラ派に会わなくて非常に驚きました。なんでそういうことが起こっているのかっていうと、なんでなんですかね。まあシンプルにいうと、日本にいる在日ブラジル人のことをメディアはちゃんと取材していない、ということなのかなっていうことですね。ただし、国際政治という文脈でいうと別に、間違っただけをしていない、傾向をちゃんと伝えているんですけども。そういう意味で、あんまり在日ブラジル人の政治的な面にフォーカスする番組は今まではやっていなかったということですかね。

**舩方：**在日ブラジル人の政治的な側面に焦点があたったものの、やはり扱われなかったものもありました。在日ブラジル人はどんな方たちなのか。彼らがどういう政治的な意識をもって海外で住んでいるのかなどです。確かこれは番組をつくるうえでは仕方がないことですが、まずはブラジルはどんなところなのか、ブラジルの政治はどうなっているのかということを知ってほしいと思います。

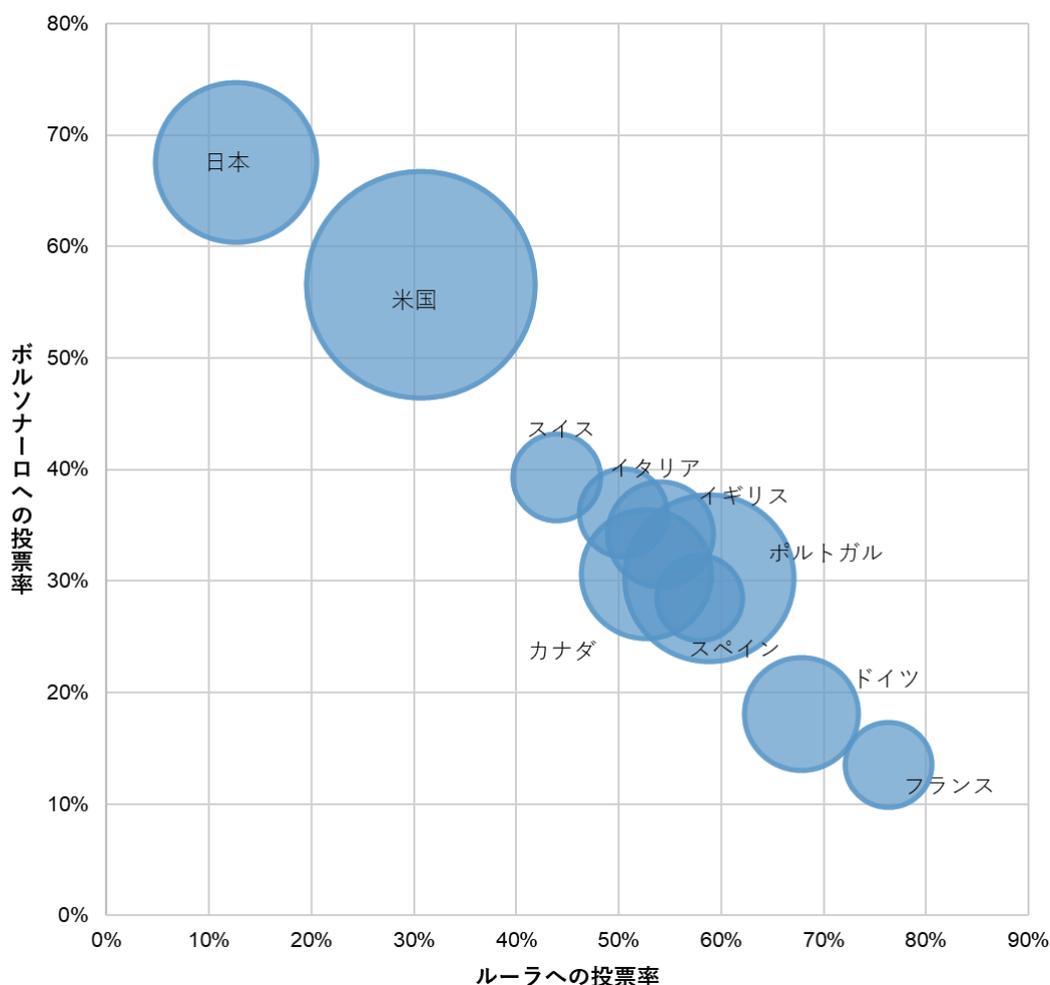
国際政治の文脈でかかわることも、今回の選挙でできるという話をしました。今回のブラジルと群馬での大統領選挙の話からここまで日本の状況を話したんですけども、この在外投票は世界中で行われていました。そこで安良城さんに在外ブラジル人の投票について各国の様子など、その傾向とかその違いについても調べていただきました。どのような特徴や傾向をつかむことができましたか。

## 世界各地におけるブラジル移民の投票行動

**安良城：**私からは、日本に限らず、世界における在外ブラジル人の投票行動のデータをお見せします。特に投票数が多い国々を集めております。第一回投票と第二回投票の結果をデータにし（図表〔次頁の図3-1と表3-2、次々頁の図4-1と表4-2〕を見せながら）、このバブルという丸の大きさが各国における投票数を表しています。白票、無効票も含んでいます。X軸はルーラへの投票の割合、Y軸はボルソナーロへの投票の割合です。

第一回投票の投票数については、ソースの関係上、1、2%の誤差があることを先にお伝えしておきます。全体的な傾向としては、第一回投票、第二回投票でおおむね類似していると見られます。

それぞれの国における投票行動の傾向が違う理由については、まだ研究がなされておらず分か



【図 3-1】 2022 年大統領選挙第一回投票 在外投票結果

バブルの大きさは各国における投票数を表す。

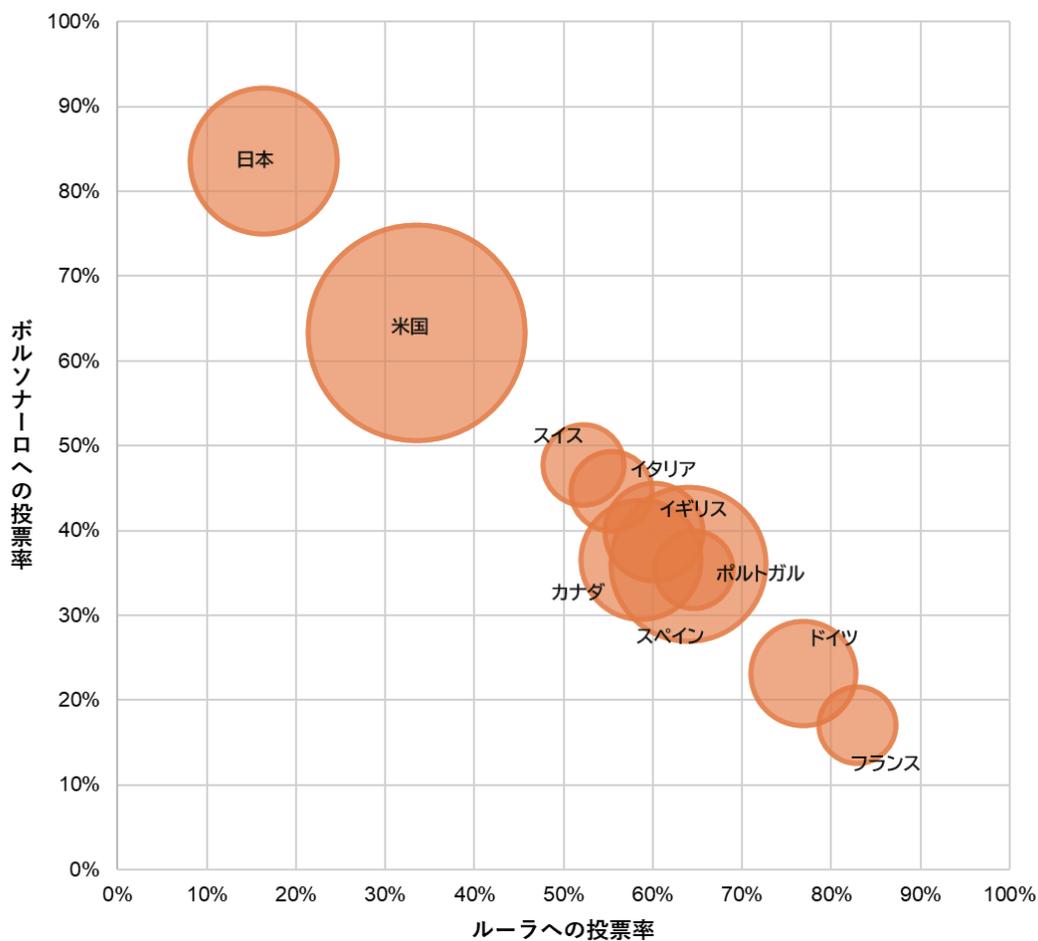
(出典：TSE, Globo(2022) に基づき安良城作成。)

<https://resultados.tse.jus.br/> ; <https://g1.globo.com/politica/eleicoes/2022/eleicao-em-numeros/noticia/2022/10/07/veja-como-foi-a-eleicao-presidencial-em-cada-local-de-votacao-no-exterior.ghml> [最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日]

【表 3-2】 2022 年大統領選挙第一回投票 在外投票結果 (出典：図 3-1 と同じ)

	投票数 (票)	ルーラへの投票率	ボルソナーロへの投票率
米国	66,983	31%	57%
ポルトガル	37,117	59%	30%
<b>日本</b>	<b>34,080</b>	<b>13%</b>	<b>68%</b>
カナダ	22,419	53%	31%
ドイツ	17,506	68%	18%
イギリス	15,103	54%	34%
イタリア	10,744	50%	36%

(注) 投票率に関し、小数点以下は四捨五入した。また、出典元から入手したデータの性質上、1~2%の誤差が生じている可能性がある。



【図 4-1】 2022 年大統領選挙第二回投票 在外投票結果  
 バブルの大きさは各国における投票数を表す。  
 (出典：TSE に基づき安良城作成。  
<https://resultados.tse.jus.br/> 最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日]

【表 4-2】 2022 年大統領選挙第二回投票 在外投票結果 (出典：図 4-1 と同じ)

	投票数 (票)	ルーラへの投票率	ボルソナーロへの投票率
米国	70,429	34% (+3)	63% (+6)
ポルトガル	36,336	64% (+5)	36% (+6)
<b>日本</b>	<b>33,057</b>	<b>16% (+3)</b>	<b>84% (+16)</b>
カナダ	22,473	59% (+6)	37% (+6)
ドイツ	17,410	77% (+9)	23% (+5)
イギリス	15,069	60% (+6)	40% (+6)
イタリア	10,512	55% (+5)	45% (+9)

(注) 投票率に関し、小数点以下は四捨五入した。また、( ) 内の数値は第一回投票結果との比較を示している。

らないことが多いことも前提とし、進めさせていただきます。

まず一番投票者数が多かった国がアメリカなのですが、アメリカはルーラへの投票率が31%、ボルソナーロが57%で、ボルソナーロに傾いている国の一つです。図〔前々頁の図3-1〕の下のほうを見ていただくと、ヨーロッパの国々とカナダがあります。カナダはルーラ53%、ボルソナーロ31%ということで、ルーラに傾いている。一方で、二番目にバブルが大きい（投票者数が多い）ポルトガルは、ルーラ59%、ボルソナーロ30%ということで、これもルーラに大きく傾いているということができます。ドイツはルーラ寄りであることがかなり明確に表れています。UK〔イギリス〕、イタリアなどはルーラ寄りなただけけれども、ポルトガル、ドイツほどはその傾向は強くない。

そんな中で、日本というのは、違う形を見せていて、ルーラへの投票率はわずか13%、かなり低い数字となっています。一方でボルソナーロは68%ということで、かなりボルソナーロ側に傾いている状況になっています。

各国の傾向の違いについては、まだあまり説明できないと先ほど申し上げたのですが、比較するとすこし面白いかなと思うところは、日本とドイツ、イタリアですね。ドイツ系移民、イタリア系移民というのはブラジル国内にもかなり多くいて、社会集団として〔日系移民と〕ちょっと似たところがあるというふうに一般的に言われています。どういう点かというと、日系移民もドイツ系移民もイタリア系移民も、南部にコミュニティが多くて、中流層や富裕層が多いところですよ。似たような投票行動につながるのではと思われるところですが、ここで表れているとおり、ドイツとイタリアではルーラへの票が多く、ボルソナーロ票が少ないという状況になります。

**舩方：**ドイツとイタリアは、人びとが団結している印象があるので、日本と同じように、保守的な伝統を重んじるような印象が与えられがちです。しかし実際の投票では日本と正反対ということを見て取れるということなのですね。

**安良城：**この点は非常に面白いと思います。この理由については、これから研究が必要とされるところだと思うのですが、我々の間で話し合っている一つの仮説として、入管法の影響を挙げられます。日本では入管法という法律によって、日系二世、三世に定住を認めています。一方、ドイツやイタリアは、移民に対して比較的門戸を広く開いている状況が考えられます。日本に定住できるのは日系ブラジル人という特定の集団だという制限をかけていることから、在日ブラジル人の中に、一定の同質性が見られやすいのではないかと思います。そういった同質性の高さを特徴とする日本は今後、在外移民の投票行動の傾向を把握するのに役立つ面白い事例だと考えられます。

**舩方：**ありがとうございます。一般的に国別に分けると、イタリア系移民がイタリアにいて、ドイツ

系移民がドイツにいるとみなされてしまいますが、実際はドイツやイタリアには様々な国の人が集まっているということなのですね。そのため、かならずしも同じ民族集団がいるというわけではなさそうということがひとつわかります。

さらにドイツには多くの高度人材がいるそうです。いろいろな社会的な属性の人たちがいるため、投票行動の分析をするさいにも困難が伴うものになります。ところが、日本の場合はすでに説明があったとおり、入管法によって同じ階層の同じ収入をもつ人たちが集中しています。そのため、投票行動の分析をするにもいいデータが取れそうだとということまでは分かってきました。

小島さんにも加えて伺います。在外投票は、いわゆるトランスナショナルな市民権ともかかわる問題です。海外にいるからといって国籍のある国の選挙に参加したいとおもうのは自然な行為です。というのも、もともと民主主義的な投票権はエリートのみがもつことを許されたものでしたが、次第に全ての男性に、その後に女性にも付与されたことで、ようやく普通選挙が実施できるようになりました。その大きな流れの中で、海外にいる人も投票権を獲得したいという気持ちが20世紀に広がっていきました。投票権は移民たちが持つトランスナショナルな問題にもかかわっているものですが、自国の政治に繋がることに関しては自分の権利だと考えている人もいる一方、移民は国内政治には介入すべきではないと思う人もいるようです。つまり、出生国の領域をこえて生活しているのだから、自分たちに関係ないでしようという立場の人もいるようですが、海外にクラス方が自国の問題に関わる投票権を持つことに関して、小島さんはどう思いますか。

## トランスナショナルな市民権に関わる在外投票

**小島：**そうですね、私自身デカセギの第二世代であり、母は日本にいて、父はブラジルにいますが、今回の選挙をきっかけに、自身の投票の意味やその権利についてたくさん考えさせられました。さらに、改めてドキュメンタリーを見て思ったのが、このブラジル大統領選挙っていう一大イベントは、自分がブラジル国民であるということを最大限に思い出させてくれるイベントだということです。日本にいるブラジル人の多くは、日本にいるからこそ、遠くにいるからこそ、ささいな場面でもブラジルとのつながりを求めているんじゃないかなと思っています。例えば、家でフェイジョアードという豆料理を食べたり、ブラジル音楽を聞いたり、今日（2022年12月10日）の深夜にはサッカーの試合（ワールドカップ・カタール大会の準々決勝）がありましたけれども、私も観戦しましたし、SNSを開くと日本在住のブラジル人たちが応援写真を投稿したりしていました。大統領選挙もブラジルとの繋がりを確かめる一つの場面なのではないかと思っています。

一方で投票という権利には責任が伴います。私の両親はデカセギで来日したのですが、母は永

住志向に変わってきたそうです。しかし、いくら親世代が永住志向に変わってきたといっても、家族だったり、親戚だったり、友人たちがブラジルにいますし、老後はブラジルに帰りたいという人もいます。離れていても、地球の裏側でも、みんなブラジルのことを大切に思っていることは間違いありません。なので、投票への責任は決して軽くはないと感じているはずですよ。

しかし、私のような第二世代が親世代とみんな同じ思いとは限らないです。もちろんさまざまな背景を持つ第二世代がいて、ブラジル学校に通う人もいれば、日本の公立学校に通う人もいますし、それぞれ違った意見をもってるかと思うんですけども、自分の親の意見に左右されて投票を行ってしまうこともあるのは確かです。しかし、私はその「無責任投票」を行う人々が悪いと思っておらず、それよりもその「無責任投票」が生じてしまう環境を改善しなければならないと思っています。情報源を増やしたり、その情報にアクセスしやすくしたり、分かりやすくしたり、関心をもってもらうことも大切だと思っています。

在外ブラジル人が投票の権利を持つことは、私はまったく否定はしたくなくて、先程も言いましたが、投票に行くことはブラジルと繋がることのできる大事なイベントなのです。第二世代の多くは、特に日本の公立学校に通った世代のほとんどはブラジルとの接点がなくなっていきますが、彼らにこそ、選挙は自分のルーツとこれからの人生を考える大切な機会になると考えています。ブラジル人としてこの先どういうふうに生きたいのか、今までどうやって生きてきたのか、どういう思いでブラジルから来たのか、どういうふうに通学勤務をしているのか、ポルトガル語に触れたり、ブラジルでの生活を思い出したりする、共有できる大切な機会です。ただ、やはりブラジルの国内情勢を理解できるようになるための環境を整えていく必要があると思っています。在外ブラジル人が皆胸を張って権利を行使できる環境が整っていったらいいなと願っています。

**舩方：**そうですね。日本に住んでいるブラジル人の方はだまされやすいということではなくて、もしそうであるならば、在日ブラジル人の方たちが情報を手に入れられるようにする仕組みを作っていくことがとても大切です。そうすれば彼ら／彼女ら自身も身の回りのことを理解することができるようになります。

また、日本も同じ問題を抱えていると思いますが、政治について考えるということは、自分たちの人生について考える、自分のルーツを考えたりすることともかかわっている。そのことが、今小島さんの話からも良くわかってきました。

最後に皆さんに伺いたいです。小島さんのような在日ブラジル人の存在を扱ったドキュメンタリーは日本政府やブラジル政府に対して、多文化共生のありかたを考えてもらう大きなきっかけになるかなと思います。ここまで群馬のブラジル大統領選挙に引き付けてみなさんと話をしてきましたが、何かメッセージはありますか。

## 日本における多文化共生にむけたメッセージ

**大島：**そうですね。今回の番組に関して言えば、冒頭でも言ったように、政治とのかかわり方とか、日本人がもうちょっと熱心にかかわってもいいんじゃないか、とか。そういう学びを得られるんじゃないかと思います。

在留外国人の取材をしていて感じるのは、「彼らのことを知ることで、自分たちの文化を相対的に見るきっかけ」になるんじゃないかなってことです。選挙に限らず、ライフスタイルやカルチャーなど、取材を通じて学びになることが多いです。ボルソナーロ派とルーラ派が分断しているという話がありましたけど、10年、20年したら、日本も同じようなことが起きるんじゃないかと思っています。どんどんどんどん経済的に豊かじゃなくなって、同じような社会になってもおかしくないなと思っていて、その時に在留外国人の文化から学ぶことがたくさんあると思っています。例えば、日系ブラジル人の方は経済的に裕福かといわれると別にそうじゃない方が多いのかなと思うんですけど、その中で選挙とか、ワールドカップとか、そういうところに楽しみを見出すのがすごく得意というか。みんなで音楽を聞いたり、家族と過ごす時間を大切にしたりとか、お金があってもなくても、ゆたかに生きていく処世術だなと思って。なんでも楽しむとか、小さいことに価値を見出すとか、そういう生き方というのが、日本人はヘタなんかじゃないのかと僕は思ったりするので、そういうところは学びになればいいなと。多文化共生って、相手の文化からいいところを取り入れて、どんどんどんどんお互いによくなっていくことじゃないかなと思うので、まあそういうことですかね。

**舩方：**ありがとうございます。私も教員としてブラジルのことを教えていると、ブラジルのことを勉強して何の意味があるんですかと尋ねられてしまったことがあります。しかしブラジルをみることは将来の日本を見ることに繋がるのかもしれない。そう思えば、海外の様々な国を学ぶのはとても大切なことであるとわかります。小島さんいかがですか。

**小島：**ありがとうございます。ありきたりかもしれないですけども、今回投票会場に行くことで、さまざまな対話の在り方を考えさせられました。どちらの候補者に投票したとしても、もう一方の支持者に批判される状況でした。両者がお互いを批判して、傷つけあって、お互いに悪い印象を与えあっていました。私はどちらの支持者にもお会いし、お話をしたんですけども、私は私の考えはありますが、それがどうあれ、まずは相手の意見を「そうだね」と受け入れることを大切にしていました。相手の考えを最初から否定すればするほど、相手が意地を張ってしまって、対話ができなくなり、その人が本当に言いたかったことも聞けなくなってしまいます。まずは否定的な意見や反

応から入るのではなく、相手を理解するために肯定することから始めることを心がけています。

また、それぞれの有権者、一人一人が見ている現実が違うんだということを痛感しました。ですが、それは当たり前のことで、自分の意見は一旦横に置いて、相手の主張とその主張に至る経緯を尊重すること、こうした意識がブラジルのように二極化させないために大切なのではないかと思います。

**舩方：**今回の選挙はルーラ対ボルソナーロという異質な他者同士が同じ空間にいました。しかし、異質な他者同士がいかに向き合っていくのかは、単にブラジル国内だけの問題ではありません。私たち一人一人がみんな異質な他者であることを気づかせてくれます。どのように異質な他者と向き合っていくのかということについて小島さんが考え方を伝えてくれてとてもいいメッセージでした。では最後に安良城さん、お願いします。

**安良城：**ありがとうございます。今回のこのドキュメンタリーは非常に良い二つのきっかけを作ってくれたと思います。まず、日本社会において、ブラジルという国、それから在日ブラジル人というのは、非常に遠い存在のように思われているというのが、私がこれまでずっと感じてきたことです。でも、このドキュメンタリーを見れば分かる通り、すぐ近くの大泉町というところには、こんなコミュニティがあって、実は非常に身近な存在だったりします。ブラジル大統領選挙がニュースで報道される中、「遠い国の自分には関係のない出来事」というふうに受け止めている人がほとんどなのではないかと思うのですが、実はこんなに身近なところで熱烈に何かが起きているということです。今回の番組により、在日ブラジルやブラジルの存在というのがもっと近くなるきっかけが生まれていけばいいなと思っています。二点目としては、やはり研究においても非常に面白いテーマだと思っているんですね。ここで、在日ブラジル人の在外投票を研究していくことによって、在日ブラジル人の問題だけではなく、もっと広い意味での世界中の在外投票の傾向、もっと言えばブラジル国内の大統領選・政治に引き付けられるような成果がもしかしたら生まれるかもしれない。今後そういったきっかけとなっていけば良いと思いますし、そういうものを作っていくことができればいいなと思っています。

**舩方：**ここからはオーディエンスの皆さんからもお話やコメント、ご質問がありましたら、受け付けたいと思います。私たちは約一か月の期間で調査を始めて、ようやく面白くなってきたところです。しかし、ここにいらっしゃる方の中には、「もうそのことは知ってるよ」と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。分析はもっとこうしたらいいのではないか。こういう分析ができるのではないか。あるいはそれ以外の部分でもありましたらぜひ。

## 会場での質疑応答

**小島：**私から大島さんにお伺いしたいことがありまして、今回ドキュメンタリーを作って、番組制作側に届いたコメントだったり、意見だったり、視聴者の反応がどういうものだったのかをお伺いしたいです。

**大島：**いろいろあったんですけど、まずそもそも、さっき安良城さんもおっしゃっていましたが、ブラジルの人がこんなに日本にいるんだってことを、知らない人が多い。あと日系ブラジル人がどういう人たちかって、知らない人が多い。こういうことに関する驚きの感想のほうが実は多くて、番組の中でもちょっと日系ブラジル人ってどういう人たちなのかって、過去の資料とか映像を使って説明すればよかったかとも思いました。番組に寄せられた感想としては、ああこういう世界があるんだとか、こんなことが行われているんだって驚きがまず多かったです。番組のメッセージは伝わったかと思っていて「ああ、ブラジルの人っていうのは、政治とか自分たちの国とか、そういうことに対して誇りをもっているというか、一所懸命考えているんだ。日本人の我々も次の選挙はちゃんと行こう」みたいな気持ちになったとか、そういう意見が結構あったのは非常に良かったかなと思っています。あとは、赤いシャツのところ、けっこう思ったよりウケてたんで、あ、なんか嬉しかったなっていう、そんな感じですかね。

**質問者①：**どうもありがとうございます。番組に出ていた工場勤務のお父さんが言っていたことに関連して、質問が二つあります。ひとつは、この人は1989年に来られて、ずっと日本にいたということですが、ブラジルの日系社会の人は今回、ボルソナーロとルーラのどちらに投票したのか。もうひとつはまたお父さんがいっていたように、ブラジルは全然変わらず、金を持っている人はお金もち、お金を持ってない人は金をもっていません。ということはルーラ政権では税制や社会保障の改革ができず、なぜボルソナーロの政権ではできたのかということ疑問に思いました。

**舩方：**基本的に同じ状況ではないかなとおもいます。日系コミュニティでも保守的な候補者に対する投票は多かったという印象があります。

**安良城：**ありがとうございます。二点目は何でルーラができなかったのに格差の是正をボルソナーロに求めているのかというご質問だと理解したのですがけれども、私もそこは疑問に思っています。ただ、実際にインタビューを行う中で感じた印象として、ボルソナーロを支持している在日ブラジル人

の方々が、格差も問題だとは認識していると思うんですけども、汚職の問題をすごく重く捉えているという印象を受けています。VTRの中でも、ルーラは無駄にお金を使ったみたいな話とか色々あったと思うんですけども。ルーラが成果を出せなかったという意見もあると思いますし、加えて、汚職の疑いが大きく影響していると感じました。色んなところにお金を渡して、お金を無駄遣いして国をダメにしたというようなことを言っていました。外から見ている私個人の意見としては、それが「だからボルソナーロに入れる」という考えにどう繋がっているのか理解し切れていない点もあるのですが。ただ彼らの中にはルーラが嫌いだという強い思いがあって、ルーラに入れたくない、ボルソナーロならきっと変えてくれるという期待が込められているのではないかと感じています。

**質問者②：**ありがとうございます。三点質問させていただきます。一点目はブラジルの投票の結果のデータを見たとき、地域差がかなりあり、南東部は観光地を資源としている地域がわりとルーラ支持になり、工業が盛んなところは、ボルソナーロに投票したのかなと見ていました。その点はいかがでしょう。二点目は、さきほども在日ブラジル人やドイツやイタリアへのブラジル移民など、移民の出身地とブラジルでの投票結果は関係しているのでしょうか。知り合いのブラジル人に聞いたら、ボルソナーロの方を応援しているのは、ルーラよりはまだましみたいな言い方をして、その心理みたいなのを何か感じるどころを教えてくださいましたら嬉しいです。三つ目が、今回は群馬の大泉を特集されたわけですが、たとえば他のブラジル人が多い浜松や愛知、また東京では、会場にはどんな温度感があったのでしょうか。

私が見たのはネット上のデータだったですけども、北部のアマゾンのあたりはルーラの支持が多くて、南部とは分かれている感じでした。住んでいる人の特徴はどのように表わされるのかなというのを疑問に思いまして。

**安良城：**ありがとうございます。ブラジル国内の地域別にどういった投票行動が実際に行われたのかというところは、今回、資料として持ってきていないのですけれども。選挙前に行われた世論調査の結果として、どういった投票行動をとるつもりかが、地域別に集計されています（菊池（2022）による表2（本書 p.18 参照）を見せながら）。仰っていただいた南東部はルーラよりもボルソナーロのほうに投票する意志が高いということになっています。北東部がルーラへの投票意志が高く、南部はボルソナーロへの投票意志が高くなっています。あと中西部もボルソナーロのほうが高いです。まず北東部は、ルーラの票田だとよく言われている地域ですけども、ルーラは貧困層への対策に重点をおいていて、北東部には貧困層の方が多いという特徴があります。そのため、ルーラに対する支持が強いというのが一般的に言われていることです。一方、南部の特徴として、先ほど申し上げたように移民が比較的多いと言われ、中流層と富裕層が比較的多い地域です。そのよ

うな点から投票行動に差異が出やすいのではないかと考えられます。産業と具体的に結び付けた分析はできていないですが、それぞれの地域の傾向を考えられます。二点目、国内のドイツ移民、それからイタリア移民がどういう投票行動をとったかという、その細かいところまでまだ分析できていないのですが、先ほども申し上げた通り、こういった移民グループに保守層が伝統的に多いということ、そして南部の比較的裕福な中流層、富裕層の多いところにこれらの移民のコミュニティが多いことを考えると、ボルソナーロの支持に傾いている人が多いのではないかとというふうに推測されます。今後分析を詳細に行っていく必要があるというふうに考えています。最後、浜松などについては、温度感など直接見に行けていないのですが、(これらの場所での)投票行動などについて小島さんがまとめてくださったので、小島さんから回答をお願いできればと思います。

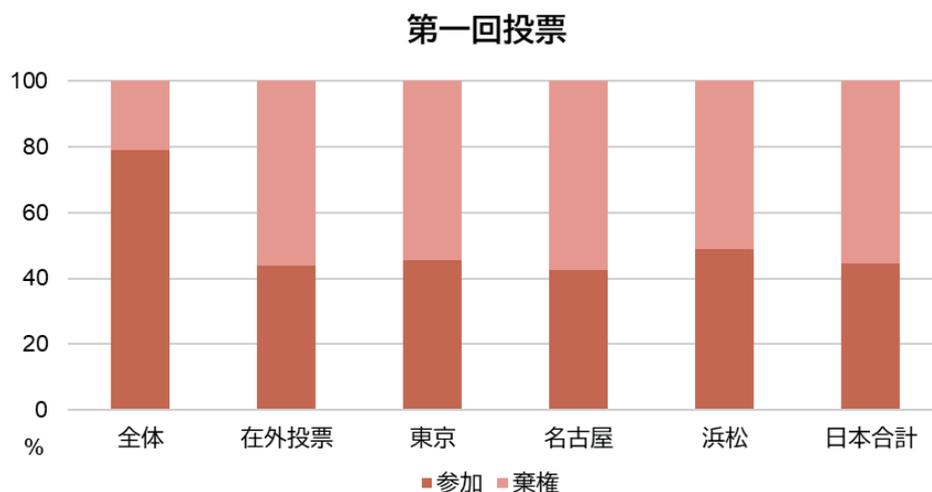
**小島：**浜松、愛知、その他の地域に関しましては、今回投票会場が8か所がありました。東京総領事館の管轄だと、高田馬場と大泉です。名古屋総領事館は名古屋、広島、鈴鹿、高岡、豊橋の5か所です。浜松の管轄は浜松のみでした。以前は、長野県の上田市や茨城県の水海道が投票会場になっていたのですが、今年はこちらの8か所のみでした。どれぐらいの在日ブラジル人が投票に参加したかという、ブラジル国内だと80%近くが投票に参加しましたが、日本では大体その半分ほどの44%でした(次頁の図表5-1と5-2、及び次々頁の図表6-1と6-2を参照)。「在日ブラジル人は約80%がボルソナーロ支持者である」と言われていますが、そもそも投票に参加しているのは、ブラジル国内に比べると少ないので実際に全在日ブラジル人の8割がボルソナーロ派なのかはより慎重に分析が必要かと思います。第一回の参加率も第二回の参加率も同じような傾向でした。過去の在外投票についてですが、日本にいる在外ブラジル人というのは、もともと何年も前から保守派の政治家に投票する傾向がありました。そして、東京、名古屋、浜松のそれぞれの参加率はどこもそれほど変わらなくて、大体40%前後、50%はいかないですけれども、浜松が少しだけ参加率が高かったです。

それから、地域ごとの有効投票数を比較してみると、東京ではボルソナーロ支持が少し少ないという傾向があるのですが、それは東京ではデカセギだけではなく、ビジネスマンや留学生など、多様な背景を持つ有権者がいるからではないかと推測しています。

**舩方：**ありがとうございます。今回のイベントでは群馬でのブラジル大統領選挙について非常に活発なディスカッションをすることができました。皆さんがおっしゃっている通り、在日ブラジル人の在外投票に関する研究はまだ始まったばかりです。前回の2018年の大統領選挙の時に話題となり日本のブラジル政治研究者の間でも誰かがやらなければと話していたものの結局誰もやらなかった。今回、ドキュメンタリーの上映会を実施したので今からがキックオフです。研究者だけでなく、それ

【図表 5-1】 2022 年大統領選挙在外投票 参加率（第一回投票）

第一回投票	有権者数 (人)	参加 (人 / %)		棄権 (人 / %)	
		参加 (人)	%	棄権 (人)	%
全体	156,454,011	123,682,372	79.05%	32,770,982	20.95%
在外投票	694,782	304,032	43.76%	390,750	56.24%
日本合計	76,443	34,080	44.58%	42,363	55.42%



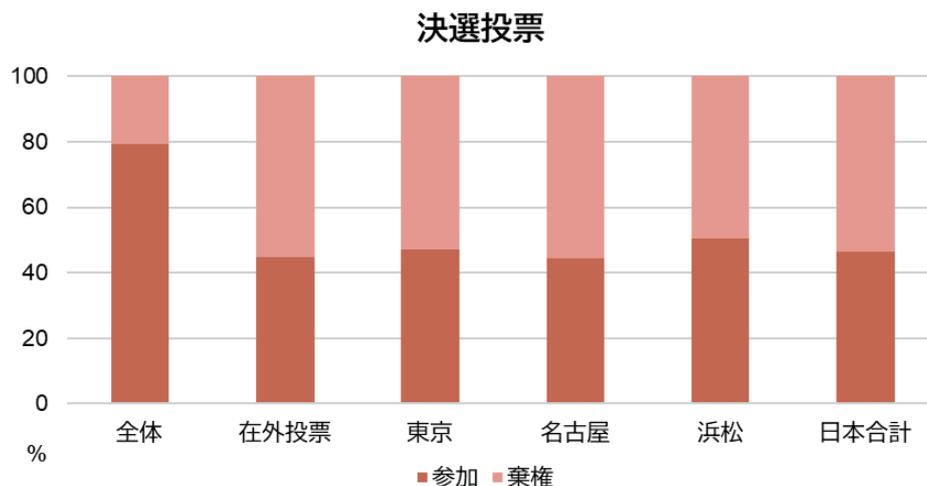
(出典：TSE に基づき小島作成。)

<https://sig.tse.jus.br/ords/dwapr/seai/r/sig-eleicao-resultados/home-comparecimento-votacao?session=102044109558789>

[最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日]

【図表 5-2】 2022 年大統領選挙在外投票 参加率（決選投票〔第二回投票〕）

決戦投票	有権者数 (人)	参加 (人 / %)		棄権 (人 / %)	
		参加 (人)	%	棄権 (人)	%
全体	156,454,011	124,252,796	79.42%	32,200,558	20.58%
在外投票	695,578	310,148	44.63%	384,857	55.37%
日本合計	76,450	35,459	46.38%	40,991	53.62%



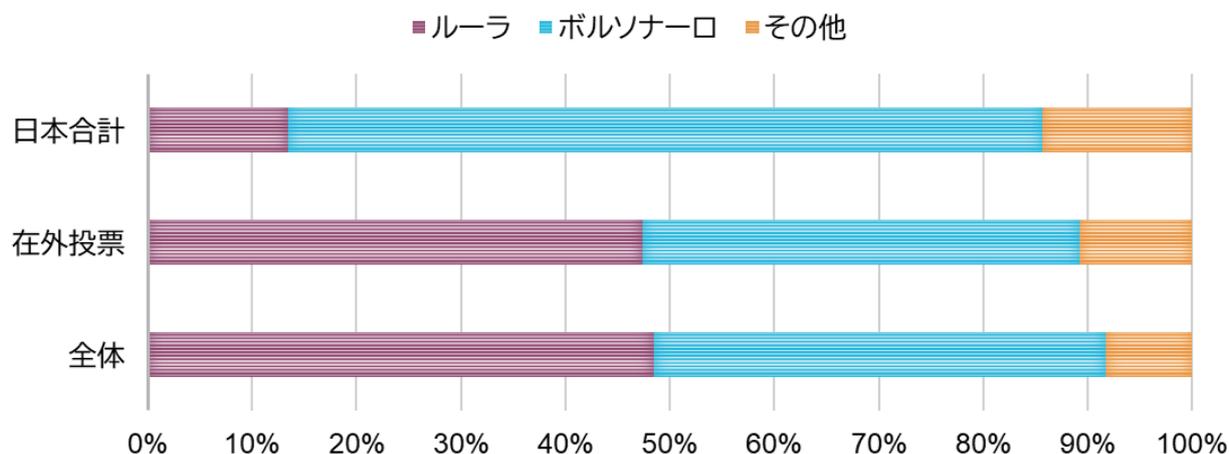
(出典：TSE に基づき小島作成。)

[https://sig.tse.jus.br/ords/dwapr/r/seai/sig-eleicao-resultados/home-comparecimento-votacao?p0\\_turno=2&session=106606581737895](https://sig.tse.jus.br/ords/dwapr/r/seai/sig-eleicao-resultados/home-comparecimento-votacao?p0_turno=2&session=106606581737895)

[最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日]

【図表 6-1】 2022 年大統領選挙在外投票 有効投票率（第一回投票）

第一回投票	有効票	ルーラ（票／％）		ボルソナーロ（票／％）	
全体	118,229,719	57,259,504	48.49%	51,072,345	43.25%
在外投票	294,525	138,933	47.39%	122,548	41.81%
日本合計	31,860	4,297	13.49%	23,007	72.21%



\*上図の「その他」は第一回投票においてルーラとボルソナーロ以外の候補者たちが得た有効得票率を示す。

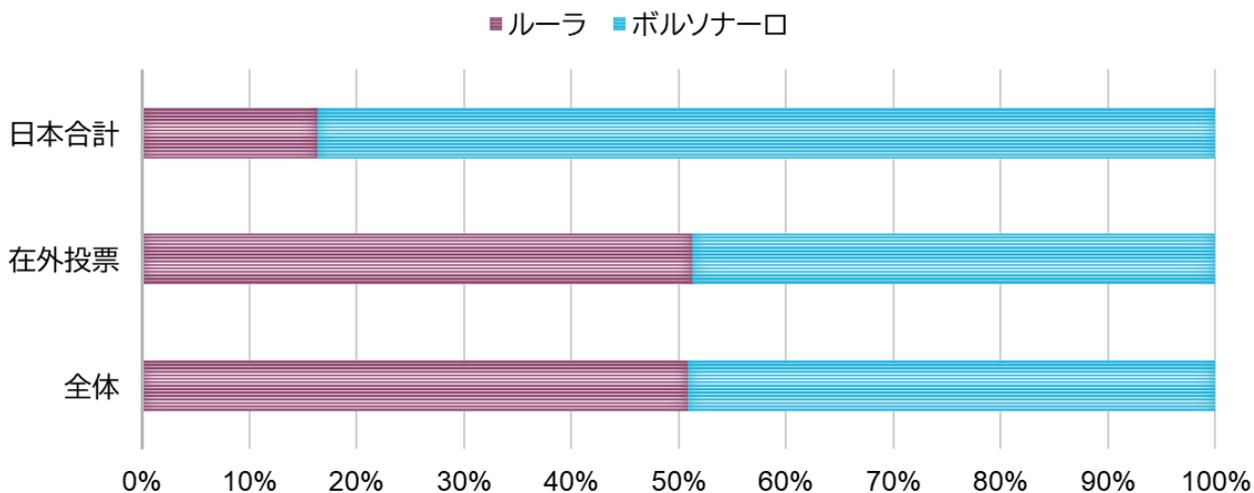
(出典：TSE に基づき小島作成。)

<https://sig.tse.jus.br/ords/dwapr/seai/r/sig-eleicao-resultados/resultado-da-elei%C3%A7%C3%A3o?session=102044109558789>

[最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日]

【図表 6-2】 2022 年大統領選挙在外投票 有効投票率（決選投票〔第二回投票〕）

決戦投票	有効票	ルーラ（票／％）		ボルソナーロ（票／％）	
全体	118,552,353	60,345,999	50.90%	58,206,354	49.10%
在外投票	298,169	152,905	51.28%	145,264	48.72%
日本合計	22,052	5,412	16.37%	27,640	83.63%



(出典：TSE に基づき小島作成。)

[https://sig.tse.jus.br/ords/dwapr/seai/r/sig-eleicao-resultados/resultado-da-elei%C3%A7%C3%A3o?p0\\_turno=2&session=115810767616922](https://sig.tse.jus.br/ords/dwapr/seai/r/sig-eleicao-resultados/resultado-da-elei%C3%A7%C3%A3o?p0_turno=2&session=115810767616922)

[最終アクセス日 2023 年 12 月 8 日]

以外にも例えばドキュメンタリーを作成されている方も、ぜひこの話題を取り上げていただき議論を活性化させていきましょう。本日は群馬・ブラジル大統領選挙上映会にお越しいただき、誠にありがとうございました。こうした機会をまた作っていきたいと思います。



## 執筆者・登壇者プロフィール（名字五十音順）

安良城桃子

（東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻・博士後期課程）

アンジェロ・イシ

（武蔵大学社会学部メディア社会学科・教授）

大島悠也

（NHK 第1制作センター（教育・次世代）ディレクター）

小島クリッシイリか

（東京外国語大学大学院総合国際学研究科世界言語社会専攻・博士後期課程）

舩方周一郎

（東京外国語大学世界言語社会教育センター・講師）



---

群馬・ブラジル大統領選挙上映会  
2024年3月31日 初版発行

編者：舩方周一郎

発行者：東京外国語大学 海外事情研究所  
TUFS Institute for Global Area Studies  
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
<https://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/index.html>

ISBN: 978-4-909866-06-6

本書を無断で複写・複製することを禁じます。

---

ISBN978-4-909866-06-6



東京外国語大学 海外事情研究所